

小松三郎 こまつ さぶろう 歌人。明治二十二年五月十五日山梨縣八代郡柏村生れ、昭和六十一年十二月十九日歿（一九〇一―八七）。第八高等學校を卒業し、昭和二年東京帝國大學醫學部卒。翌年陸軍軍醫學校卒、十年ドイツ留學、十二年歸國後軍醫學校教官、陸軍省醫療局醫官等を務め、戦後後醫院開業。大正十五年アララギ入會、初の本名出月三郎名で作歌、齋藤共吉の選を受け、次で藤澤古實、爾後専ら上屋文明の選を受けた。昭和四十一年アララギ編輯委員（選者）となる。

歌集『古城篇』（昭和二十二年六月十日札幌青磁社「アララギ新輯」）、

『門出』（出月雪子共著、昭和二十九年四月十六日白玉書房）、『小

松三郎遺歌集』（出月雪子編、平成元年七月二十日石川書房）等。

